

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
 (仮称)日本コムシス京都南TS新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.01)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q1 建築物の環境品質</b>					0.36				2.6
<b>1 音環境</b>				3.0	0.15	-	-		3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	-	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-		
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-		
<b>2 温熱環境</b>				2.3	0.35	-	-		2.3
2.1 室温制御				2.5	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.38	-	-		
2 外皮性能				1.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-		
<b>3 光・視環境</b>				3.5	0.25	-	-		3.5
3.1 昼光利用				4.2	0.30	-	-		
1 昼光率		昼光率: 8.78		5.0	0.60	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-		
1 グレア制御				3.0	1.00	-	-		
3.3 照度		執務室の照度700lx		4.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-		
<b>4 空気質環境</b>				3.7	0.25	-	-		3.7
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		内装材はF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。		4.0	1.00	-	-		
4.2 換気				3.6	0.30	-	-		
1 換気量				3.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積率/室面積=0.27		5.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	1.00	-	-		
<b>Q2 居住性能</b>					0.30				2.9
<b>1 機能性</b>				2.9	0.40	-	-		2.9
1.1 機能性・使いやすさ				2.3	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				1.0	0.33	-	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	-	-		
3 バリアフリー計画				3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				3.3	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		事務室の天井高2.8m		4.0	0.33	-	-		
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペース/執務スペース=18%、自動販売機の設置		5.0	0.33	-	-		
3 内装計画				1.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		維持管理に配慮した設計において、該当する項目が標準以上である		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				2.8	0.30	-	-		2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用。		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				1.8	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-		
3 電気設備				1.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				1.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				1.0	0.20	-	-		

3	対応性・更新性		2.9	0.30				2.9
	3.1 空間のゆとり		2.8	0.30				
	1 階高のゆとり		2.0	0.60				
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.17	4.0	0.40				
	3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30				
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40				
	1 空調配管の更新性		3.0	0.20				
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20				
	3 電気配線の更新性		3.0	0.10				
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10				
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20				
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20				
Q3	室外環境(敷地内)			0.34				1.8
1	生物環境の保全と創出		1.0	0.30				1.0
2	まちなみ・景観への配慮		2.0	0.40				2.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30				2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50				
	3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50				
LR	建築物の環境負荷低減性							3.4
LR1	エネルギー			0.40				3.9
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPIm:0.82	4.8	0.20				4.8
2	自然エネルギー利用		3.0	0.10				3.0
3	設備システムの高効率化	BEIm:0.68	4.2	0.50				4.2
4	効率的運用		3.0	0.20				3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00				
	4.1 モニタリング		3.0	0.50				
	4.2 運用管理体制		3.0	0.50				
	集合住宅の評価							
	4.1 モニタリング							
	4.2 運用管理体制							
LR2	資源(マテリアル)			0.30				3.2
1	水資源確保		3.4	0.20				3.4
	1.1 節水	節水コマ+省水型機器	4.0	0.40				
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60				
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70				
	2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30				
2	非再生性資源の使用量削減		3.2	0.60				3.2
	2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10				
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20				
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20				
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20				
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10				
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げ材が容易に分別可能、OAフロア	5.0	0.20				
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20				3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30				
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70				
	1 消火剤							
	2 発泡剤(断熱材等)		3.0	1.00				
	3 冷媒							
LR3	敷地外環境			0.30				3.1
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率:79%	3.8	0.33				3.8
2	地域環境への配慮		3.0	0.33				3.0
	2.1 大気汚染防止		3.0	0.25				
	2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50				
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25				
	1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25				
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25				
	3 交通負荷抑制	適切な量の駐車・駐輪スペースを確保している。	4.0	0.25				
	4 廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25				
3	周辺環境への配慮		2.7	0.33				2.7
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40				
	1 騒音		3.0	0.33				
	2 振動		3.0	0.33				
	3 悪臭		3.0	0.33				
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40				
	1 風害の抑制		3.0	0.70				
	2 砂塵の抑制							
	3 日照障害の抑制		3.0	0.30				
	3.3 光害の抑制		1.6	0.20				
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70				
	2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30				

CASBEE-建築(新築)2016年版

(仮称)日本コムシス京都南TS新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
1.3.1 維持管理に配慮した設計	7.0		○	○	○	-	○	○	-	○	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		-	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	--		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	--		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	--		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	2.0		-	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	--		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	--		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	--		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	--		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	--		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0		1.0	-	3.0	3.0	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	3.0		1.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	--		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	--		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	ηAC
床	ηAH		
3.1.1 昼光率	0.0%		
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率	0.0%	

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

執務スペース	.0㎡/人	病床	.0㎡/床	シングル	.0㎡	ツイン	.0㎡
コンセント容量	0.0 VA/㎡						
天井高	0 m						
リフレッシュスペース	0.5%	レストスペース	2.0%				
想定耐用年数	0 年						
想定必要間隔	0 年						
想定必要間隔	0 年						
想定必要間隔	0 年						
階高	0 m						
壁長さ比率	0.0%						
床荷重	- N/m2						
外構緑化指数	#DIV/0!	建物緑化指数	0%				
空地率	59%	水平投影面積率	0%	地表面対策面積率	0%	舗装面積率	0%
BPI/BPI <sub>m</sub>	0.86	断熱等性能等級	対象外 相当				
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%		
		通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%		
BPI/BPI <sub>m</sub>	非住宅 0.69	住宅	-	太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW
				蓄電池	.0kW		
雨水利用率	0.0%						
特定調達品目	-	エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-		
使用比率	0.0%						
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)					
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)					
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)					
見付面積比	#DIV/0!	階間隔指標Rw	-				
地表面対策面積率	0.0%	屋根面対策面積率	#DIV/0!	外壁面対策面積率	#DIV/0!		
見付面積S <sub>b</sub>	㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅W <sub>s</sub>	0 m	基準高さH <sub>b</sub>	0 m		
緑地	㎡	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡
				再帰性反射対策面	㎡		